

# 平成24年度中区区民意識調査の結果がまとまりました

中区役所では、区政に対する区民の評価やニーズを調査し、今後の区政における政策立案、事業化等に反映させるため、区民意識調査を実施しました。

今回の調査は、東日本大震災を受けて「防災」と「地域の絆・つながり」について、新たに項目を設けたほか、「自治会・町内会」「多文化共生」「子育て支援・児童虐待」「行政情報」「中区のまちづくり」について行いました。

調査結果から浮かび上がったキーワードは「防災・防犯」です。区役所への期待、地域の課題ともに区民の意識が高くなっています。

## 1. 調査概要

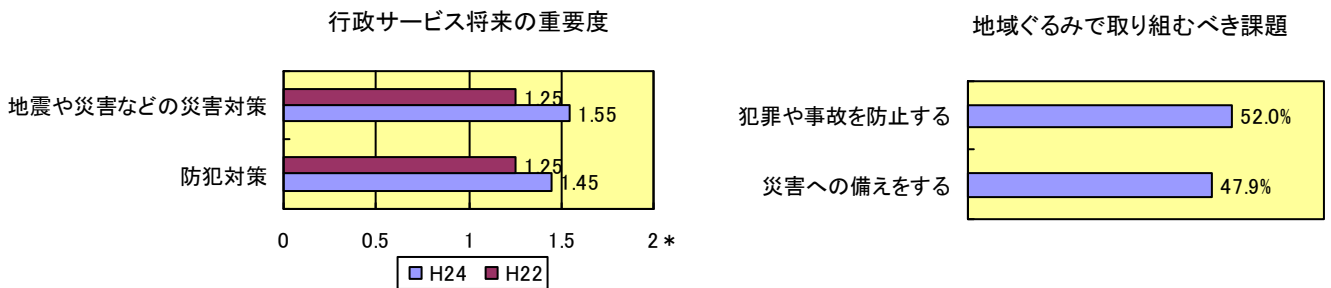
調査対象	区内在住の20歳以上の男女 3,500人（うち外国人375人）
抽出方法	住民基本台帳、外国人登録原票からの無作為抽出
調査方法	郵送によるアンケート調査
質問数	32問（属性11、行政サービス1、項目別質問19、自由意見1）
調査時期	平成24年6月1日～6月30日
回収結果	1,350件（38.6%）

## 2. 主な調査結果

### ■中区民の注目は「災害対策」と「防犯対策」

中区の行政サービスの将来の重要度は「地震や火災などの災害対策」が最も多く、「防犯対策」は3位で、ともに前回調査（平成22年度）から大きくポイントを伸ばしました。

また、区役所が発信している情報に求めるものも「防犯、防災の情報」の要望は高く、日本人では2位、外国人では1位でした。



\* 重要度は回答の平均をとり指標化しています。重要度2が最大値です。

地域ぐるみで取り組むべき課題については、「犯罪や事故を防止する」が52.8%で最も多く、ついで「災害への備えをする」が47.9%でした。

中区の将来像としてのまちの姿も、「災害に強く、防犯、交通安全等、安心して暮らせるまち」が最も多く、約半数の人が望んでいます。

## ■「現在の満足度」がポイント上昇

行政サービスの現在の満足度は、「日常の買い物の利便性」が最も多く、次いで「バス・電車による移動の利便性」、「中心市街地の整備・景観・街の美化」が続いており、それぞれ前回調査（平成22年度）から3ポイント近く高くなっています。

また、全体としても満足度が上昇しています。

## ■多くの人が実践している「小さなおせっかい（親切）」は「席を譲る」

小さなおせっかいを「実践している」行いのうち、「バスや電車で高齢者や妊婦の方などに席を譲る」が最も多く、続いて「頼みごとや相談をされたら、自分のできる範囲で手伝いをする」で、これらは回答者の半数以上が実践しています。

高齢者や子育て家庭に対して「見守り」「声かけ」「手助け」を「実践している」との回答は10%強でしたが、「今後実践できる」が約40%で、今後の地域でのかわりに期待ができます。

### 「小さなおせっかい（親切）」とは

中区では、少しおせっかいと言われようとも、一人ひとりが思いやりをもって行動することで地域の絆・つながりを強めていく「中区みんなで小さなおせっかい運動」に取り組んでいます。



## ■地域の子育て支援のポイントは「子育て世代を支える場の充実」

保育園が地域の子育て支援のために充実すべきことは、「一時保育」が41.6%で最も多く、「育児相談」が40.8%、「保護者どうしのつながりを生む交流行事」が34.3%と続きます。

保育園が、子を持つ家庭にとってより暮らしやすくなる場となることが望まれています。

## ■行政情報・地域情報は「紙媒体」で

行政・地域情報の入手方法については、「広報よこはま中区版」が最も多く、「広報よこはま横浜市版」「回覧板、自治会・町内会の掲示板、ポスター」と続きます。圧倒的に紙媒体が高く支持されています。

また、区役所が発信する行政情報の充実を望むものは、「区内のイベント情報」が最も多く、50.8%でした。このことから区版広報から、区内の情報を得ている方がとても多いことが分かりました。

報告書については、中区役所ホームページでご覧いただけます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/naka/policy/research.html>

問合せ先 中区役所 区政推進課企画調整係 電話 045-224-8129